

## 令和6年度第2回あわらし郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：令和6年10月18日（金）

午後1時30分から

場 所：金津本陣 IKOSSA 3階

市民文化研修センター研修室1

（次第）

1. 郷土歴史資料館館長 あいさつ

2. 議題

（1）令和6年度郷土歴史資料館事業報告について

（2）令和7年度郷土歴史資料館事業の計画について

3. その他

（出席委員）

水野 和雄

吉田 純一

宇都宮 高栄

能美 進

寺井 玲子

瀬戸 暢代

（欠席委員）

長野 栄俊

（事務局）

文化学習課長 早見 孝枝

郷土歴史資料館館長 九千房 英之

郷土歴史資料館学芸員 吉田 紺碧

【郷土歴史資料館館長 あいさつ】

（0. 前回の指摘事項について事務局より報告）

事務局：前回、年報を是非作成してほしいというご意見がありましたが、現在作成中です。令和3年度までを今年度中に作成して、皆さんにご提示並びにHPで公開できるようにしていきたいと思っております。

事務局：二つ目に、駅に本陣飾り物を設置してほしいとのことでしたが、これは今年実施されました。1点展示されていますが、10月31日までの展示となっております。

事務局：三つ目に、常設展示のリニューアルについて2点ご指摘受けております。まず、

時代の表記、及びイラストのキャプションについて、こちらはまだできていませんが、今年度中に西暦の絶対年度表記と、(イラストが) どこを映しているのかを表記したいと考えております。それからイラストの方についても吉田委員に見ていただきましたので、タペストリーにして作成中です。今年中には入れ替えられる予定となっております。

委員：各区で本陣飾りを引き上げた後は考えていないのか。

事務局：資料館の事業ではないので、基本的には片づけてしまった後は、しばらくは本陣飾りはないと思います。また次年度以降どうなるかは商工会等が決めると思います。

委員：駅のどこに本陣飾りがあるのか。

事務局：新幹線の改札を突き当たったところにあります。

委員：どこが作ったものか。

事務局：稲荷山だったと思います。

#### (1. 令和6年度の資料館事業について事務局より報告)

委員長：何か今の点につきましてご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

委員：企画展の「三人の藤野先生」ですが、巖九郎さんしか知らないのの説明をしてほしい。

事務局：巖九郎のお父さんで升八郎という方がいまして、この方が大坂の適塾で医学を学んだ方です。橋本左内と交流があつて、最終的には下番に戻って村医をされました。それから巖九郎先生と、その甥の恒三郎という方がいます。大阪大学の医学部に所属されていた方で、腸炎ビブリオという食中毒の1番の原因菌を発見された先生になります。その3人を取り上げた展示となります。

委員：巖九郎記念館でサテライト展示となっているが、ここでもするのか。

事務局：本体の展示はこっちで行います。

委員：それは、大阪大学の方で事前にやったものですか。

事務局：現在あわら市には巖九郎家の文書を中心とした資料があります。大阪大学の方で事前にやったものをお借りしたうえで本展を行い、あわら市で持っている資料の一部をピックアップして巖九郎記念館の方でサテライト展示しようと考えております。

委員：今の点に絡んで、巖九郎さんの下番の生家も指定を考えてもいいのではないかと。

事務局：今は石碑だけではなかったでしょうか。

委員：地元の方がきれいにしているので、生誕地とか何かの形で光を当ててもいいかと。

事務局：文化財指定は難しいが、活用計画の関連文化財群にひも付けることができるのであれば、紹介していけるようになるのではないかと思います。

委員：あわら市として巖九郎のことをやるのであれば、それに関連したものを系統だてる必要があるのではないかと。

事務局：活用計画にひも付けようと思っておりますが、考えます。

委員：普通、企画展とか特別展は1、2年かけて考えてもらわないと。第1回の時には出てこなかったようなことが出てきたが、場当たりに次々と持って来られているような気がする。第1回の委員会である程度固めた形でもらって、それに邁進するんだというイメージでもらわないと。(今回の藤野展は) 大阪大学のものを持ってくるからいいかもしれないが、こちら側が企画の段取りの主導権を持って、やってほしいと感じる。

事務局：もっともなご意見だと思います。

委員：4月に決めた計画を削ってまでするのか、それにプラスしてするのか。

事務局：資料館の人員の関係で今回は削って行うことにしました。今後はなるべくそういうことがないように注意いたします。

委員：大阪大学の方が来られて講演いただくことも(配布資料に)書いてもらわないと。

事務局：後で書いたものを送らせます。

委員：朝からラジオを聴いているが、しょっちゅう狛犬展のCMが入る。今までの企画展や特別展はそんなことなかったのに、どうして今回はこんなに入っているのか。

事務局：今までとあまり変わらないです。普段から後援依頼は行っているのですが、何か気に入っていただけたものがあつたのかもしれない。

委員：リーフレットがあっちこっちにある。あわらのものでなかなかあつたのですが、敦賀にもありました。

事務局：今までと同じ箇所を送っています。ただ目立ただけではないでしょうか。市町の文化財担当者も、担当がちゃんと調べていることを知っていると思うので、そのようなことも原因ではないかと思います。

委員長：北陸新幹線が通って県外の人にも来ているということで誰かが流すようになったのでは。芦原温泉駅で降りる人は少ないですが、街の中でスマホを持ちながら歩いているのは毎日1、2人は見ます。

事務局：今の狛犬展で県外から来る人はたくさんいます。このあいだも東京からきて3時間出てこなかった人もいます。

委員：玄関に置いてあるパネルがとても良い。それをわざわざ撮りに来る人も見ました。面白いことをやっているのと、その写真などがSNSで流れているのではないのでしょうか。

委員：駅からここ(資料館)まで道の上にずっと色を塗れないか。

事務局：市長はそれをやってみたらと言ってもらえているが、なかなか建設課と折り合いがつかない状況です。

委員長：昔はそういう計画もあつたのですが、お金の関係でなくなりました。

事務局：今後継続的に努力していきます。

委員長：他にいかがでしょうか。

委員：その他の資料館活動で、桑野遺跡の件を福井新聞社と共催でやるとのことで、レストスペースとするのはいいと思うが、ある程度資料館が主体性を持って桑野遺跡のPR

事業を進めてほしい。資料館として許される範囲で様子を見つつやってほしい。これは来年度事業ですか。

事務局：今年度事業です。お土産物作りなどを進めています。

委員：このようなことが徐々に増えてくるから、今協議してても今年度するのかがわかりにくい。

事務局：今年はイレギュラーなことが多く、これも抜けていたので加筆してお送りします。

委員：けつ状っていうのは耳飾だけでなく腰にもぶら下げたのか。

事務局：そのあたりはわかりません。学者によっていろいろ言われていますが、今の時点では耳飾りだといわれています。

委員長：では2番の方に入らせていただきます。お願いします。

## (2. 令和7年度の資料館事業の計画について事務局より報告)

委員長：それでは令和7年度の計画について何か質問等あればお願いします。

委員：南稻越の発掘調査で企画展をやるときに、何か目玉になるものは出ているのか。どういうものでアピールしていくのか。

事務局：集落遺跡ということで、集落に関係したもの、例えば玉作りの一部分も出ていますし、あとは珍しくふいごの羽口が出ています。いままで製鉄遺跡といっても、大鍛冶の製鉄遺跡の方でしたが、今回は小鍛冶の製鉄遺跡が出ています。あとは土器とかです。

委員：関連して、伊井小学校で地域のことをまとめた展示をやっていてびっくりしました。

事務局：あそこには伊井地区でも南稻越とは違う他のところが多かったと思います。これまで南稻越の発掘調査が全部で4回行われています。平成10年代に金津町で1回、平成27・28年と平成30年に県がそれぞれ1回ずつ計2回、令和5年に金津町が1回やって、それぞれの調査報告書が来年度には出揃う形になるので、それを基にした展示を行う予定となっています。

委員：その目玉はなんですか。

事務局：先程も申しあげましたが、羽口などがあります。

委員：南稻越遺跡の展示をするのは誰かというのが必要。越前瓦の展示も誰が主担当となってまとめていくのかというのが必要。

事務局：南稻越遺跡の方は橋本可奈が主担当で、資料館の橋本幸久という課長補佐がサポートしながら展示をする予定となっています。二人とも考古学専門です。

委員：そのあたりも表の横くらいに足して、主担当は誰かを書いてもらいたい。

事務局：備考のところに入れるようにします。越前赤瓦は吉田が担当します。あわらの近代の方は車谷が担当する予定となっています。

委員：企画展の越前赤瓦の軌跡だが、その始まりと発展というのでなかなか難しそうなどころだが、図録は刊行する予定なのか。

事務局：図録はなしになりました。

委員：近世城郭の瓦に赤瓦はあるのか。

事務局：予定では、福井城と金沢城と富山城の瓦を展示しようと思っています。3つとも赤瓦は出土していて、時代は変わりますが使っていたということはわかっています。

委員：予算獲得となると、(要求書に)きちんと書かないといけないのでは。私たち協議会が後ろ盾となって財政課を説得しないと。

事務局：おっしゃるとおりです。

委員：赤瓦は函館かどこかにもあるのでは。

事務局：現在、函館奉行所に越前瓦が葺かれています。が、当時はどうだったかはわかりません。

事務局：補足ですが、越前瓦は使われていました。使われていたので、その復元するときに、わざわざこちらへ発注して赤瓦を作らせて、今使っております。

委員：武生の方で作らせたようです。

委員長：小丸城の恨みの瓦は赤瓦ですか。

事務局：あれはいぶし瓦になります。企画展では、赤瓦になるまでの過程としてその前の時代についても説明しようと思っています。織豊期の説明のなかで小丸城の瓦を取り上げようと思っていて、恨みの瓦は指定文化財になっているので難しいですが、同じ場所に出ているそれ以外の瓦を持ってこようと思っています。

委員：北陸三県の近世城郭の瓦と書いているから狭められるのであって、ここではそのように明記しない方がよいのでは。

事務局：わかりました。

委員：いぶし瓦と赤瓦の作り方の違いにも触れてほしい。

事務局：そのようにします。

委員：ミニ展示のところで、桑野遺跡の出土品展は仮称と書いてあるが行われるのか。

事務局：耳飾りもテーマを決めて最近できていなかったもので、来年度からしたいと考えております。タイトルのみ仮称です。

事務局：抜けばかりで申し訳ないですが、イベントのところで南稲越発掘調査の方の関連講演会を、埋蔵文化財センターの鈴木さんをお願いをして、8月にできるよう調整しています。それから、越前赤瓦の方は、県立こども歴史文化館(当時)の中原副館長をお願いしてやっていただけることになっています。

委員：越前赤瓦の軌跡云々というけれども、これを広くとらえると福井県内を見渡さないといけないから、むしろ地域的にはある程度あわら市とかある程度絞り込んで、そういうものを展示しながら、赤瓦全体の流れを述べていく方がいいのでは。むしろそういう流れの中であわら市の瓦はどうなのかというとらえ方をすることがいいのではないかと。

委員：今の狛犬もそう。福井の方とか古いやつは出ていない。全体の赤瓦、瓦についての赤瓦とかそういうイメージのものとして最上段に構えておいて、パネルとかで紹介し、持ってくるのはやっぱりあわら市と関係したような形で集めてくる方がよい。

委員長：今作っている瓦は赤瓦ですか。

委員：今はいぶし瓦です。

委員長：今はどこでつくっていますか？

事務局：県内では武生だけしか作っていません。

委員：福井では古代から瓦が発展しない。ただ近世になってくると赤瓦が越前産という形ででてくる。

委員：今は福井県でも黒い瓦ですけど、石川県に入ると赤瓦なんですよ。この違いはなんだと思いますか。

事務局：加賀の方の瓦は越前の技術がいて、その赤瓦をそのまま継承して残したのが、加賀の江沼瓦で、越前の方の瓦は焼成技術を少しずつ進化させていて、より頑丈に作れるように色を変えていって今の銀ねず色に落ち着いていったようです。

委員長：能登の方は黒瓦ですか。

事務局：黒瓦です。

委員：ぼくは古代の方ですが、北陸の雪降るところは古代の瓦がほとんどない。それに比べて滋賀県など雪のないところはたくさん出てきます。

事務局：市内では瓦谷というところが出ています。

委員：小松の赤瓦とは色が違います。小松の方は釉薬を塗っている。越前の方は基本的に何も塗っていない。

委員：旧芦原町のかるたの中に細呂木から瓦を焼く煙が金津の方へ来るっていうかるたがありました。

事務局：東善寺の古文書にあります。瓦焼きの煙の影響で、東善寺の作物がよくなるから瓦焼きをとめてくれというものが残っています。古文書を持っていたお宅がなくなって、今古文書がどうなっているかはわかりませんが、芦原町史をつくったときに撮影したフィルムが残っていて5、6年前くらいにデータ化してありますので、文書の写真を使ったパネル展示は検討させています。

委員：あわら市における滝の瓦も出したいのであれば、あまり赤瓦に絞らない方がよいのではないか。

事務局：検討します。

委員長：清王のところで作っていたのは赤瓦ですか。

委員：赤瓦ではないと思います。

事務局：赤瓦ではありません。高塚とか下金屋にもありますし、発掘の事例で言いますと、花乃杜から、瓦焼きのだるま窯が出ています。県が発掘したものになります。

委員：展示には窯の図も書いてください。

事務局：わかりました。

委員：お寺をまわれば、周りに置いてあることがあるから、県外うんぬんというよりも、あわら市だけでもいけるのでは。

事務局：市内全部回ってみるのも手だとは思いますが。

委員：うちの溝にも赤瓦が何枚か並べてある。

事務局：平瓦や棧瓦だけだと展示の構成にならないので、ある程度見栄えのするような、資料的にしっかりしたものも出しながら検討します。

委員：昔創作の森で瓦展示をやっていた。

事務局：あれは、細呂木公民館と資料館に一部あります。

委員長：他はいかがでしょうか。

委員：あわら市で鬼瓦を作っていた方は今どこでやってるんですか。

事務局：今は体調を崩されて子供のところに移られています。

委員：滝かどこかですか。

事務局：もともとは滝です。

委員：同級生が滝で瓦を焼いていたので、ある程度家が残っていたような気がする。

事務局：今創作の森のところにか所残ってます。

委員長：清王のところにも2、3軒あった。

事務局：道具とか残っていればいいのですが。

委員：滝瓦の方が最近までやっていたのでは。

委員：つい最近までやっていたと思います。

委員：越前瓦は越前市の久保さんが研究されていた。

事務局：補足になりますが、越前瓦というのは越前市の方だけではなく、越前国内で焼かれていた瓦の総称で、学術的にはそう言われています。

委員：越前赤瓦は？

事務局：その中で江戸時代の赤い色に発色したものを指しています。その中に滝の瓦も含まれていますし、柿原の瓦も含まれています。ですので、もちろんあわら市の固有的な宣伝をするのであれば、滝瓦といった方がいいかもしれませんが、越前赤瓦とした場合にはそれらを包括的に含めた名称で、タイトルとしてはこちらを用いて、展示の時には滝瓦や柿原の瓦とか、そういったものはスポイルしながら展示することになると思います。特にそっちの方が中心になるはずです。

### (3. その他)

事務局：何か発言がある方おられますでしょうか。

委員：このような事業計画の概要で予算は取れるのか。

事務局：実際には細かい開催要項や見積書を提出していますし、展示概要とかも用意しています。それをもとに予算を要求します。

委員：大体通年の感じでいくと、これくらいの事業数であれば取れますか。

事務局：今のところは問題ありません。

委員：紀要とか年報とか本来であれば必要なものでそのためのお金が必要になってくる。

予算がつけば出していき、毎年出していくというシステムを作らないといけない。

委員：企画展のテーマや年報内に記載する研究なども、学芸員の頭の引き出しから出してこれるように今後準備していかなければならないのではないかと。

事務局：これからも調査研究を進めていきたいと思えます。

委員：この資料館の職員が何を専門としているのか、事務を担当しているのかをまとめた一覧表を作ってほしい。

事務局：年報に掲載する予定です。

委員：企画展の説明の時にもあったが、瓦展の図録分の予算要求をなぜ取り下げしてしまうのか。こちらとしては図録を作りたいというスタンスでいるべきではないか。その結果として財政課に切られてしまうのは仕方ないと思うが。

委員：資料館の中でも特別展はどのような規模とするのか決まっていけないのではないかと。

事務局：図録を出すのが特別展ということにしております。予算金額につきましては、その時のテーマによって大きく上下するところがあるのでそこまで定まっていけないです。図録を出さないのが企画展、自前の資料だけで行うのがテーマ展としています。瓦展図録の予算の取り下げについては、担当学芸員が新人なのでいきなり負荷をかけるのはよくないという判断でそうになりました。

委員：図録までいなくても冊子とかアーカイブとかにして残すというのはどうか。

事務局：解説シートを作らせます。

委員：常設展をもう少し華やかにできないか。

事務局：これからレプリカを作成する予定です。来年度以降もレプリカを作成していくつもりですので、もう少し良い展示になるかと思えます。

委員：本陣飾り物のスペースをもう少し狭くすればどうか。

事務局：市外からくる人にすごく人気があります。常設展のなかで説明をしたときに一番反応してもらえるので、なくすことはできないと思っています。

事務局：他にないでしょうか。ないようですので、これにて協議会を終了いたします。